

## 平成8年度茨城県統計大会開催！

この大会は統計関係者が統計に対する一層の自覚と認識とを深め、また統計事業の発展とともに県民に対する統計思想の普及を図ることを目的として、昭和34年以来毎年開催されており今回で38回目を迎えました。

今年度は、統計を今まで以上に身近なものと感じられるよう、また調査結果の利用・活用がより促進されるよう、県内を4ブロック（県北、鹿行、県南、県西）に分け、それぞれの地域の特色に合った大会を目指して開催いたしました。

県北地区大会：11月12日(火) 県水戸合同庁舎
鹿行地区大会：11月22日(金) 県立婦人教育会館
県南地区大会：11月19日(火) 茅崎町中央公民館
県西地区大会：11月26日(火) 県西生涯学習センター

各地区大会とも開会のことばで始まり、橋本昌  
まさる  
知事（県統計協会総裁）のあいさつ（代読）が述べられ、表彰に移りました。

まず統計調査に長年従事され功績の顕著な方に贈られる茨城県知事表彰、統計に多大の功労のあった方に贈られる茨城県統計協会総裁表彰が行われ、ついで各省庁大臣表彰等の伝達と、叙勲・褒

章受章者、大内賞受賞者の紹介がなされ、受賞の皆様には会場から大きな拍手がおこりました。

次に第47回茨城県統計グラフコンクール入賞者、入賞校、グラフ指導者の表彰が、第44回統計グラフ全国コンクールの表彰伝達と併せて行われました。

つづいて来賓の皆様からお祝いとねぎらいの言葉が贈られ、各地区大会受賞者代表から謝辞が述べられました。

平野八千代水戸市統計調査員（県北地区大会）、菅谷正雄麻生町統計調査員（鹿行地区大会）、富田佳子茅崎町統計調査員（県南地区大会）、菊地光雄下館市統計調査員（県西地区大会）から各地区的歴史や伝統、地域性をふまえた地区ごとの大会宣言（案）が朗読され、それぞれ満場の拍手で採択され、閉会のことばで終わりました。

今回の統計大会では新しい試みがなされました。各地区でシンポジウム「明日の統計を考える—よりよい統計環境のために—」が実施され、鹿行、県西地区大会では地域講演を行いました。また、県西地区での統計グラフコンクール入賞者による作品発表では、改めて本県の統計グラフに対する

表彰名	調査員	職員	市町村	事業所 (実務者)	学校	計
総務庁長官表彰	6	13	6			25
文部大臣表彰			1		6	7
通商産業大臣表彰	3	1	2	11		17
通商産業省実務者表彰				6		6
労働大臣表彰	1			13		14
全国統計協会連合会会长表彰		2				2
茨城県知事表彰	117	4		3		124
茨城県統計協会総裁表彰	113	14				127
計	240	34	9	27(6)	6	322



統計功労者表彰（県南）



シンポジウム（県北）



地域講演（鹿行）



統計グラフ作品発表（県西）

関心の高さがうかがえました。

特にシンポジウムは調査環境の悪化がさけばれる今日、いかに改善していくか、何をしなければならないのか、活発な討論となりました。パネラー（統計調査員、市町村統計主管課長）ならびに会場の皆さんから多くの意見が述べられました。

調査に携わった上での苦労や喜び、また現状をふまえ将来に向けた貴重な提言を数多くいただき、盛会のうちに終了しました。

大会の開催にあたりご協力いただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

（統計課・普及指導グループ）

## 村田眞道氏、大内賞受賞



村田眞道氏

大内賞とは、戦後日本の統計の再建に尽くした大内兵衛博士（元統計委員会委員長）の偉大な業績を記念して昭和28年に設けられたもので、わが国統計界最高の栄誉として統計の進歩発展にすぐれた功績のあった方に贈られています。

村田氏は県の調査課長（現・統計課長）を歴任するなど通算19年にわたって統計業務に従事し、本県統計の発展と普及とに尽力しました。県退職後も統計に対する情熱は変わることなく、現在も財団法人全国統計協会連合会（全統連）参与として活躍されています。

## 平成8年度 茨城県統計グラフコンクール入選作品紹介

統計思想の普及向上と統計の表現技術の研さん  
に資することを目的とした「第47回茨城県統計グラフコンクール」が、茨城県、茨城県教育委員会及び茨城県統計協会主催、茨城新聞社の後援により開催されました。

本県は、全国的にみても作品の質・量ともトップクラスにあり、本年度においても応募作品数9,087点、応募人数20,321人という多くの方々にご参加をいただきました。

今年の作品の傾向を見てみると、小学校低学年が身近な友達や家族のことを取り上げ、高学年や中学生などは環境問題や高齢化問題を多く選んでいるようです。また、各学年に共通するテーマとして、オリンピックやいじめ問題、あるいはボランティアやO-157などの食中毒問題が数多くみられました。

審査は、県内5地区において地区審査員により地区別審査がまず行われ、作品584点が選ばれました。これらの作品についての県の審査は、9月18日(木)・19日(金)の両日、大洗町の「オーシャンビューワン大洗」において県審査員10名により厳正に行われ、知事賞4点、県議会議長賞5点等81点が最終的に入選作品として選ばれました。

これら入選者については、11月に県内4地区において開催された「茨城県統計大会」の席上において表彰式が執り行なわれ、賞状と副賞品が授与されました。

特に、県西地区大会においては、表彰式終了後、茨城県知事賞を受賞した児童による作品発表や茨城県教育研究会統計教育研究部副部長の海老原三雄先生による、コンクール全般の講評発表が行われ、作品製作時における苦労などに臨時の皆さんも感心していたようです。



県審査会

また、各地区の統計大会においては入選作品が展示され、各自の作品の前で児童・生徒の皆さんのが記念撮影を行う場面があちこちで見られました。

次に第44回統計グラフ全国コンクールについてですが、前記の県審査会で入選した作品のうち27点を全国コンクールを主催する財全国統計協会連合会に出品しました。

その後、全国から出品された768作品について10月11日(金)に中央審査が東京で行われ、本県作品は入選が9作品、佳作9作品が選ばれ、過日賞状と副賞品が授与されました。

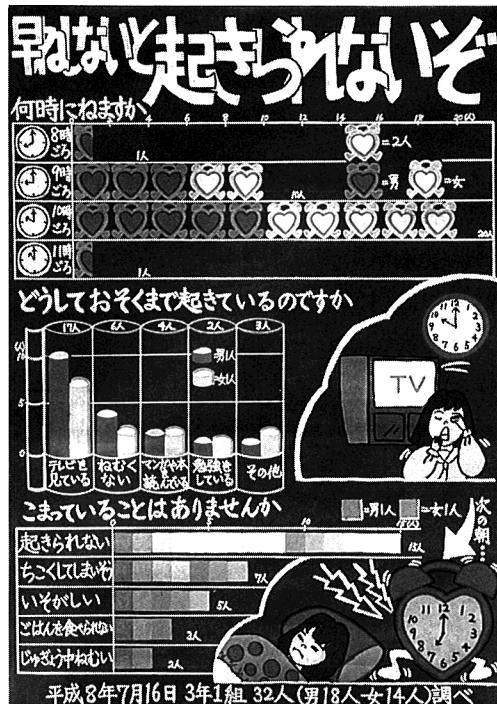
今後は、入選作品の巡回展示等も予定しておりますので、この機会に多くの方々が統計グラフ作品に親しんでいただければと思います。

なお、次頁以降に茨城県知事賞及び茨城県議会議長賞受賞作品を掲載しております。

### 〈統計グラフコンクール表彰〉

県知事賞	9名
県議会議長賞	9名
県教育長賞	19名
茨城新聞社長賞	13名
県統計協会総裁賞	41名
県統計協会長賞	94名
優秀校賞	15校
奨励校賞	30校
統計グラフ指導者総裁賞	10名
全国コンクール入選者	41名

(統計課・普及指導グループ)



● 1部 茨城県知事賞

関城町立東小学校3年 青木 彩

(全国コンクール佳作)

● 2部 茨城県知事賞

千代田町立七会小学校6年 市村 美和

田谷 律子

福田 敬子

宮本理恵子

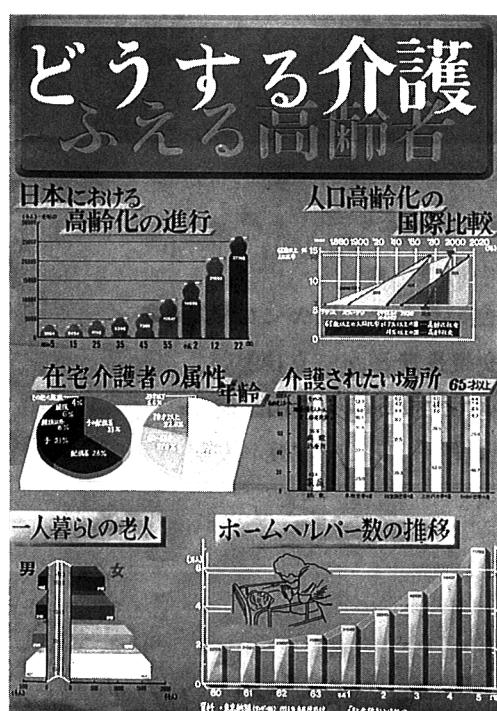
(全国コンクール佳作)



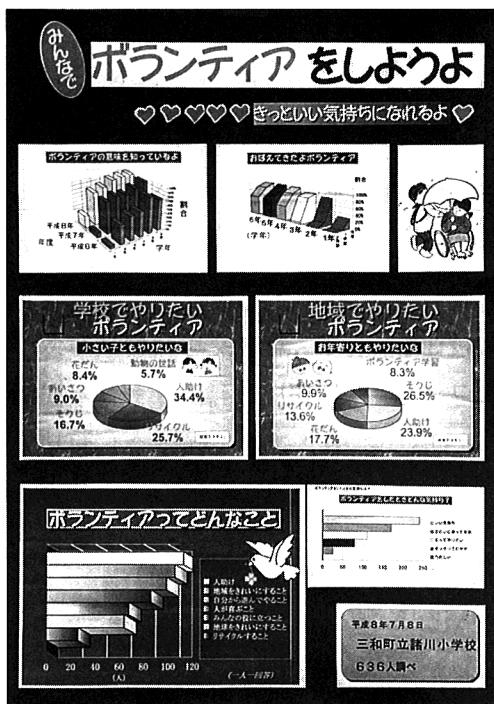
● 3部 茨城県知事賞

八郷町立園部中学校2年 服部 浩之

(全国コンクール佳作)



## ◇統計の窓



### ●パソコンの部 茨城県知事賞

三和町立諸川小学校 4年 大河原夕貴

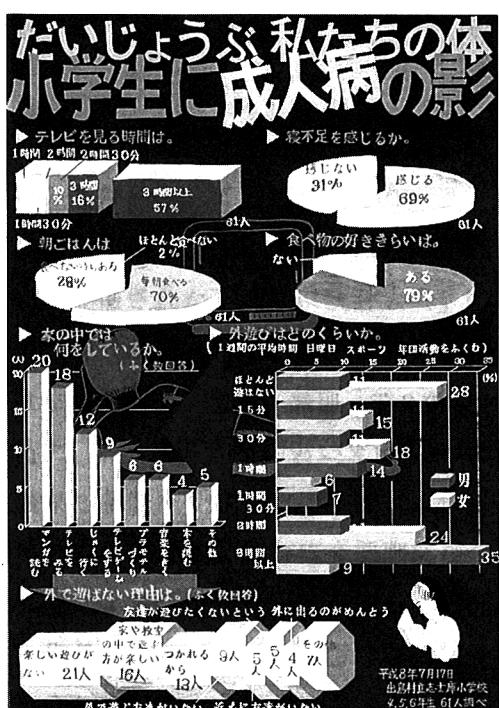
鈴木 純美

山中 優美

(全国コンクール入選)

### ●1部 茨城県議会議長賞

三和町立名崎小学校 1年 倉本 美奈  
船橋千亜希



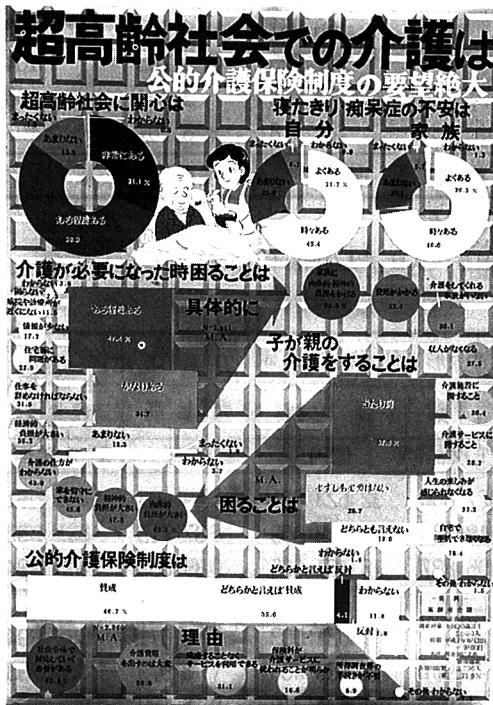
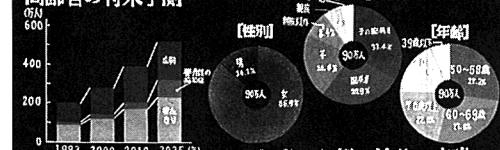
### ●2部 茨城県議会議長賞

出島村立志士庫小学校 5年 袖山 直子  
古渡 友美



## 6 5歳以上人口が急増! 高まる高齢者介護への不安

介護が必要な  
高齢者の将来予測  
寝たきり高齢者の介護者の内訳



## ● 5部 茨城県議会議長賞

つくば市 倉田 廣之

(全国コンクール入選)

## 学校の役割は? 家庭教育の責任

学校5日制完全実施への賛否 (総数: 250人)



賛成の理由 (複数回答)



反対の理由 (複数回答)



## ●パソコンの部 茨城県議会議長賞

神栖町立神栖第一中学校 3年 沼田 恒乃

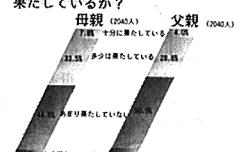
得能祐里子

(全国コンクール佳作)

学校教育の一部を  
地域社会で分担すべきか



親は家庭教育の責任を  
果たしているか?



資料:読売新聞(平成8年8月6日)  
「学校の役割 スリム化支持」より